

アクア母ちゃん

長万部漁協女性部長
横山 淳子さん



“長万部産”をもっと有名に

嫁いで18年になりますが、義母が女性部長をしていたので、私もすぐ女性部に入りました。義母に付いてあちこち顔を出させてもらい、とても面白かったです。昨年、部長になりましたが、みんな協力的で活動をもり立ててくれています。若いので見てられないのでしょうか。助けられています。とにかく皆で仲良く楽しませようというのが私のモットーです。ゲームをしたり、旅行会を持ち寄り食事会など集まる機会を増やして親睦を強めています。わいわいと話をして情報交換をするこ

とでいろいろと勉強にもなります。そのほか、自慢できる活動に漁港掃除があります。各地域、月に1~2回の頻度で行っていますが、釣り客が多いのでゴミの量も半端じゃありません。マットレスや紙オムツなどわざわざ捨てに来たとしても思えないゴミもたくさん落ちています。長万部といったら毛ガニのイメージが定着していますが、サケもホタテもホッキも特産品です。一般的にはあまり知られていませんが、築地では長万部産黒ホッキとして売られ、高級料亭が買い

求めています。ホタテも食べた人からは長万部のものは身が締まっていて厚くて美味しいと評判です。先日、うちの女性部でNHKのほくほくテレビに出演して、ホタテ料理の紹介をしてきました。長万部産のホタテを1枚でも多くみんなに食べてもらいたいですね。とにかく“長万部産”の魚介類をもっと宣伝して、もっと広く一般に流通させていきたい。それは、女の仕事だと思います。みんなで知恵を出し合って、有名にしていきたいですね。

あなたのレポーター The Aquaculture

育てる漁業

平成15年7月1日
NO.362

発行所 / 北海道栽培漁業振興公社
発行人 / 杉森 隆
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
(北海道第二水産ビル4階)
TEL(011)271-7731 / FAX(011)271-1606
ホームページ <http://www.saibai.or.jp>



南茅部町のひろめ舟祭り

6月14日、南茅部町白尻漁港で『ひろめ舟祭り』が開催され、町内外から約3千人が訪れました。豊かな海の恵みと漁港に感謝し、豊漁を祈願しようと始められたもので、今年で18回目を迎えます。メインイベントは漁場対抗の舟漕ぎ競争で、大漁太鼓のなる中、応援団の声援をうけて熱い戦いが繰り広げられました。また、もう一つの呼び物は、大漁旗や提灯で派手さを競うように飾り付けられた行灯船のパレード。南かやべ漁協各支所から集まった漁船が一隻ずつ紹介され、港内を周回し、絢爛豪華な船を披露して観衆を魅了しました。

CONTENTS 目次

漁業士発アクアカルチャーロード	2
いぶり噴火湾漁協指導漁業士 外山孝義さん	
平成15年度通常総会	3~7
事業実施計画	
アクア母ちゃん 長万部漁協女性部長	8
指導所見聞記 釧路地区水産指導所	8

指導所見聞記

～釧路地区～
所在地: 厚岸町字若竹町 2-70-9

●担当漁協
白糠・釧路市・釧路市東部
昆布漁・厚岸・釧路・津中

●スタッフ
武田所長
高島主査

●指導所
林 孝義
宮本 隆

●指導員
金澤 孝義
佐々木 隆

●指導員
花田 孝義
若木 隆

厚岸にはカキの人工育苗生産施設があり、人工育苗での養殖試験に取り組んでいる。

ワジで標漁もとめておる

エゾバイも生態がわかっていない。定点調査や標識放流でデータを蓄積中。

白糠のタコ産卵箱の効果調査でヤナギタコのことか少しずつ分かってきた

ツブカゴ漁業者と操業日誌をつけて、資源管理意識が高まりつつある。

空更生産技術の確立と並行して、地域産品を差別化するための宣伝方法も考えが必要があります。

55センチは

ヤナギタコは生態的知見が少な

アサリの増殖では天然採苗試験も行っている

こねいた宮城でカキを食べましたか

造成礁の上で網をみあう

好ましくない

土管の外にも卵か!

8

1

最低価格を 決めてほしい

「噴火湾の中では、礼文地区が養殖ホタテ発祥の地。おやじの時代の青年部が、ロープに付いている稚貝を見つけてやりだしたのが始まり」と話すのは、いぶり噴火湾漁協指導漁業士の外山孝義さん。

外山さんは豊浦町の礼文華に住んでいます。高校卒業後、本州で仕事をしていたが、30歳の時に父親が急死し、Uターンしてきました。

「ホタテ養殖に関して全く知らなかったの、桁の場所から何から親戚や周りの人に教えてもらいながら何とか短期間で覚えた」

ポケットから耳吊りへ

礼文地区では当初、ポケット養殖をしていました。10年ほど前から耳吊りをする人が出始め、外山さんも8年前に移行しました。

「ポケット養殖は春の入れ替えの時に人手がすごくいるし、網の修理があるのでしわ寄せが母さんにいていた。その点、耳吊りは機械化されていて半分の手ですむし、母さんにも時間の余裕ができる。過疎化が進んで人手の確保が難しくなってきたこともあり、思い切って機械を入れて耳吊りをすることにした」

礼文地区のホタテは噴火湾の中でトップクラスを誇っている。その秘訣は、大きな稚貝だけを下げ、残存

貝を作らずに海の栄養環境を良くしてやっていることだと外山さんはいいます。

「みんなの意識が高いからできる。まとまりがあって、決まったことについての守り方はすばらしいよ」

悪循環を絶つために

「養殖のいいところは、下げた時点で水揚げの予想がつけられるということ。例えば、来年子供が高校上がるから施設を増やそうとか、前なら単価が大体分かっていたので生活に合わせて計画が立てられた」

今は、単価がどこまで下がるか分からない状態でそれができなくなったと外山さん。これ以上は下げませんよという最低ラインを決めてほしいと訴えます。

「今のままでは、多めにつくっておかないとおっかなくて生活できない。価格が下がるから量を増やす、量が増えるからまた価格が下がる、悪循環だ。最低価格が分かれば、それに合わせて計算して、生活が成り立つだけの量をつくればいい。人件費もかからなくてすむし、多くつくる必要がないから全体量も減っていい方向へ向かうと思うよ」

豊浦町礼文華中学校には水産クラブがあり、生徒が自分たちの施設を持ち、ホタテの養殖をしています。



いぶり噴火湾漁協指導漁業士 外山 孝義さん

外山さんは7年間水産クラブの講師を務めました。

「稚貝採りから耳吊り、出荷まで体験する。何人かでも地域に残って後継者へと育ててほしい」

外山さんには後継者の息子がいて、礼文地区の青年部長をしています。夕食時にはほとんど毎晩、2時間はいろんな話をするといいいます。

「青年部長と漁業士、おやじと息子、漁業者と漁業者、いろんな立場でお互いの意見をぶつけあう。母さんも嫁さんも一緒に、浜のこと世間のこと、いろいろ話を。子供たちが小さいときから夕食時の家族団欒を続けてきた。これからもこの時間は大切にしたいね」

組合の加工場を

いぶり噴火湾漁協は、豊浦、虻田、有珠、伊達の4漁協が合併して今年4月に発足しました。

「新漁協への希望は、加工場を作ってくれたらいいということ。組合で二次加工して、ある程度製品にして出してやれば、底値の支えになるし、いろんなやりくりができる。母さんたちのアルバイトにもつながるしね。期待している」

平成15年度通常総会開催

合理化と新たな決意で栽培漁業推進

当社の平成15年度通常総会が6月20日、札幌の第二水産ビルで開催されました。

提出議案の 1.平成14年度事業報告及び収支決算について 2.平成15年度事業計画及び収支予算の設定について 3.会費の賦課について 4.役員報酬について 5.借入金の最高限度について 6.役員退任慰労金について 7.役員補欠選任について、各々慎重に審議されました。

その結果、全議案とも満場一致で可決され、役員

の補欠選任では、正会員理事に市山亮悦ひやま漁協組合長と小田桐四郎標津町長が選任されました。



杉森 隆会長あいさつ



平成15年度通常総会の開催にあたり、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。皆さま方には、昨日の全道漁協組合長会議を初めとして、系統及び関係団体の総会に引き続きご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、道庁水産林務部からは、公務で大変お忙しいにもかかわらず、達本水産局長のご臨席を賜り、厚くお礼を申し上げます。本日、ご出席の皆様方には、常日頃から、当社の事業の推進にあたり、特段のご理解とご協力を頂いておりますことに対して、この総会の場をお借りして、あらためて深く感謝申し上げます。

さて、昨日の全道漁協組合長会議において、真剣に論議がなされ、決議されましたホタテ漁業が直面しております供給と需要の問題とその対策は、これからの栽培漁業の推進に当たって、どの対象魚種にも共通する問題であり、栽培漁業を取り巻く厳しい状況を見ますと、まさに大きな転換期を迎えていると認識しなければならぬと考えております。

このような状況のなかで、本道の栽培漁業を支える種苗生産事業と、漁業と漁場環境の保全を図るための調査・設計事業の推進にあたっては、全道の漁協と沿海市町村を会員とします公社の果たすべき役割とその責務をしっかりと受け止めて、栽培漁業の推進に向けて、さらなる努力をしなければならぬと、決意を新たにしているところであります。

本日の総会でご審議いただきます内容につきましては、後ほど詳細に説明をいたさせていただきますが、私から、平成14年度の事業の実施状況と本年度の事業計画の重点課題について申し上げます。

まず、平成14年度の事業の実施状況ですが、ヒラメの種苗生産事業は、親魚から産卵孵化、飼育の工程管理を見直し、技術面での改善を図った結果、当初計画を上回る279万4千尾を放流し、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビについても、計画通り終了することが出来ました。

また、調査設計事業につきましても、当初計画の6億7千万円を上回る7億4千万円の受注を確保すると

ともに、それぞれの調査設計事業の実施にあたって、実行予算制を導入した結果、前年に比較して約8千700万円の節減が図られ、平成14年度の決算は、基金会計を含む公社全体で約6千万円の黒字決算となりました。これも、浜の皆さまのご支援と職員一同の努力の賜物と、感謝しているところであります。

さて、平成15年度の事業計画と収支予算ですが、まず、現在までの事業の実施状況について申し上げますと、「ヒラメ種苗生産事業」は産卵孵化から孵化仔魚の飼育に移行しており、「ニシンの種苗生産事業」については、計画の140万尾を上回る170万尾を生産し、すでに、各地において放流を終了しております。さらにクロソイ、ウニ、アワビにつきましても、現在のところ、当初計画を達成できるものと考えております。また、調査設計事業につきましては、今年度は、昨年の当初計画とほぼ同程度の、受注件数71件、受注金額6億9千万円を見込んでおります。

次に、平成15年度の収支予算ですが、アワビの種苗生産は、補助金の削減等から、浜の強い要請に基づく種苗単価の引き下げによって1千2百万円、ウニ種苗生産につきましても、ここ数年来の海水温の上昇による生産の減少が響き、需要量の落ち込みが大きいことから、1千5百万円の赤字がそれぞれ見込まれ、公社全体の収支計画は、約3千2百万円の赤字予算となっております。

このため、平成15年度においては、常勤役員の年俸の20パーセント削減を初めとする人件費の節減、種苗生産事業の合理化による維持管理費の節減、さらに、調査設計事業の実行予算制の強化と外注経費の節減等をより一層進め、この厳しい状況を何とか乗り切って参りたいと、役職員一同、決意を固めているところであります。また、浜の皆さまと関係発注機関に対して、栽培漁業の推進と環境保全に資する調査設計事業を進めるために、公社の果たすべき役割と責務に係わる具体的な情報発信を強化して、さらなるご理解とご支援を賜りたいと考えております。

本日の議案は、「平成14年度事業報告及び収支決算」など7件でございますが、十分にご審議を賜りますことをお願い申し上げますとともに、ご出席の皆様方のご健勝と大漁を祈念いたしまして、平成15年度の通常総会のご挨拶とさせていただきます。

事業 実施 計画

(社)北海道栽培漁業振興公社の平成15年度事業計画が通常総会で承認されましたので、その内容を紙面上で紹介します。

1 栽培漁業指導事業

(1) 研修指導事業

栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業に係る知識、技術の普及と指導を目的とした研修会を、水産技術普及指導所の支援を得て、道内各地において下記のとおり開催するとともに、会員等が行う研修事業の実施に協力します。

また、本道における栽培漁業に関する今日的課題について、全道の関係者を対象に「育てる漁業研究会」を札幌市において開催します。



研修事業計画

研 修 課 題	実 施 時 期	開 催 地
「漁業生産技術研修会」 サケの生態と加工 サケの回遊と加工 ミズダコの生態と資源管理	平成15年9月	浜益村
	9月	白老町
	12月	厚田村
「育てる漁業研究会」	平成16年1月	札幌市

(2) 広報普及事業

ア 機関紙「育てる漁業」の発行

栽培漁業に係る事業、試験研究、施設及び資料等の紹介、解説等を掲載した機関紙「育てる漁業」を、毎月発行、配布します。



イ 北海道沿岸漁場海況速報事業

栽培漁業推進上の基礎資料とするため、道内の沿岸漁場50か所において毎日観測した水温を、旬ごとにまとめるとともに、過去10年の同旬平均水温を併記して速報するほか、年間の水温、気象をまとめて刊行、配布します。

この全道を網羅した日々の観測データは、道内唯一のもので広く有効に活用されているため、観測従事者の協力を得て今後も継続します。

ウ 種苗生産事業報告書の発行

公社が行っているヒラメ、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビの種苗生産について、平成14年度事業の経過及び実績をとりまとめて発行、情報交換文献として、全国の関係機関に配布します。

(3) 漁業技術研究支援事業

漁村青少年グループ等が行う、栽培漁業に関する研究実践活動のうち、その実効が期待されるものに対し、所要経費の一部(1件50万円以内、実施期間3か年以内)を助成するとともに必要に応じ技術的な協力も行います。

また、地域の漁業振興に係わる取り組みのより一層の活性化を図るため、栽培漁業の推進に関連する

加工、流通さらには漁業経営についての新しい取り組みに対しても支援します。

漁業技術研究支援事業計画

研 究 課 題	実 施 団 体
エゾアワビ人工種苗事業化追跡調査	羽幌町漁業協同組合焼尻地区青年部
キタムラサキウニ罎養殖企業化試験	ひやま漁業協同組合青年部瀬棚支部
ノリ養殖試験事業	利尻富士町ノリ養殖部会
マツカワブランド化推進事業	えりも以西栽培漁業振興推進協議会
ハタハタ採卵・中間育成・放流試験事業	留萌中部ハタハタ研究会
シラウオ漁獲調査	大樹漁業協同組合青年部
カレイ種苗生産事業	紋別漁業協同組合青年部
人工リーフを利用したウニ人工種苗放流試験事業	苫小牧漁業協同組合青年部



(4) 技術開発試験調査事業

クロソイ親魚養成試験

平成14年に瀬棚センターで種苗生産した稚魚1,000尾を用いて、平成14年11月から親魚養成試験を開始しました。本年度も引き続き飼育試験を実施します。

2 日本海 ニシン種苗生産委託事業

道は、日本海地域の漁業振興対策の一環としてニシン資源増大に力を入れることとし、平成8年度から13年度までの6か年を第一期、平成14年度から19年度までの6か年を第二期として事業を推進してきました。

公社は、道から委託を受け、羽幌センターで45mm種苗を140万尾生産し、うち10万尾を60~70mmま

で中間育成します。

本年度は、厚田村の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、45mm種苗を140万尾生産し、後志、石狩、留萌、宗谷管内等の各地先で中間育成し、放流する計画です。



3 栽培漁業推進事業 (ヒラメ種苗生産事業)

餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の課程を経て、30mm種苗296万尾を生産し、そのうち55万尾を5か所の民間中間育成施設へ配布します。

残りの241万尾は、羽幌、瀬棚両センターにおいて放流サイズの80mmまで中間育成し、5か所の民間施設と合わせて220万尾を放流します。

ヒラメ種苗生産計画

北海道栽培漁業羽幌センター

(110万尾放流体制)

[30mm種苗]	[中間育成]	[放流80mm]
羽幌センター 147万尾	羽幌センター 133万尾	100万尾
	民間施設 14万尾	10万尾
	(羽幌 14万尾)	10万尾

北海道栽培漁業瀬棚センター

(110万尾放流体制)

[30mm種苗]	[中間育成]	[放流80mm]
瀬棚センター 149万尾	瀬棚センター 108万尾	81万尾
	民間施設 41万尾	29万尾
	寿都 16万尾	12万尾
	大成 8万尾	6万尾
	吉岡 9.3万尾	6万尾
	知内 7.7万尾	5万尾

4 栽培漁業振興事業 (種苗生産等支援助成事業)

地域の協議会等が実施する種苗生産、中間育成、放流等の事業に対して、振興基金運用益から助成します。



5 アワビ種苗生産事業

(1) 種苗単価の改定

本年度から種苗のミリ単価を従来の3.2円/mmから、放流用種苗で2.0円/mm(20~30mm種苗)及び2.5円/mm(35~45mm種苗)に、中間育成用種苗で1.8円/mmに改定して新価格を設定いたします。

(2) 種苗の育成管理と供給

平成13年、14年及び15年春に採苗した種苗を育成管理し、本年度は96万3千個を供給します。また、本年度は平成16年に供給する20~30mmの種苗177万8千個の採苗を行い、育成管理します。

(3) アワビ種苗供給体制効率化事業

道がすすめるアワビ栽培漁業構造改革推進事業の一環として、アワビ種苗生産事業を効率化してコストダウンを図るために、夏期高水温による成長停滞やへい死対策、深層水を使った初期餌料の安定生産

アワビ種苗本年度供給計画

殻長区分	20~25mm	30~35mm	40mm以上	計
13年春産			227,500	227,500
14年春産	60,000	675,500		735,500
計	60,000	675,500	227,500	963,000

栽培漁業振興事業実施計画

(単位：千円)

事業主体	対象魚種	助成対象事業費	助成内示額	
寿都町漁業協同組合	クロソイ	2,876	1,438	
島牧漁業協同組合	マソイ	3,677	1,838	
	クロソイ			
ひやま漁業協同組合	クロソイ	4,915	2,457	
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	クロソイ	5,124	2,562	
渡島東部海域栽培漁業協議会	クロソイ	1,970	985	
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	クロソイ	4,920	2,460	
噴火湾胆振海区漁業振興推進協議会	マツカワ	6,240	4,160	
静内漁業協同組合	ハタハタ	6,356	3,541	
	クロソイ			
三石町栽培漁業推進協議会	マツカワ	1,799	948	
	ハタハタ			
	クロソイ			
	マガレイ			
浦河漁業協同組合	エソボラ	600	400	
様似町水産振興協議会	マツカワ			
	ハタハタ	2,102	1,116	
	エソボラ			
	マツカワ	6,026	3,236	
えりも町栽培漁業振興協議会	ハタハタ			
	クロソイ			
	マガレイ			
	エソボラ	1,530	1,000	
十勝管内栽培漁業推進協議会	マツカワ			
大津漁業協同組合	クロソイ	1,545	772	
釧路市漁業協同組合	クロソイ	3,326	1,960	
	マツカワ			
昆布森漁業協同組合	ニシン	872	435	
厚岸漁業協同組合	ニシン	1,000	500	
根室海域ハナサキガニ資源維持増大対策連絡協議会	ハナサキガニ	422	211	
根室管内ニシン種苗生産運営委員会	ニシン	32,000	7,683	
根室管内栽培漁業推進協議会	マツカワ	3,852	2,568	
斜里・網走・常呂海域マツカワ栽培漁業推進協議会	マツカワ	450	300	
宗谷漁業協同組合	マナマコ	2,314	1,157	
	ホツカイエビ			
利尻町	エソバフンウニ	2,480	1,240	
増毛町	ニシン	1,758	879	
	ナマコ			
	クロソイ			
合 計	24件	11魚種	98,154	43,846

等を試験事業として実施します。

アワビ種苗の新旧価格

		サイズ区分(mm)					
		20mm	25mm	30mm	35mm	40mm	45mm
新価格	放流用種苗	ミリ単価(/mm)		2.0円		2.5円	
	種苗単価(/mm)	40円	50円	60円	87.5円	100円	112.5円
旧価格	中間育成用種苗	ミリ単価(/mm)					
	種苗単価(/mm)	36円	45円	54円	63円	72円	
旧価格	種苗単価(/mm)	3.2円					
	種苗単価(/mm)	64円	80円	96円	112円	128円	144円

6 ウニ種苗生産事業

エソバフンウニ種苗は、平成14年秋に採苗した種苗及び平成15年春に採苗する種苗を育成管理し、本年度は466万5千個の種苗を供給するとともに、平成16年に供給する334万5千個の秋採苗を行い育成管理します。

また、キタムラサキウニ種苗は平成14年秋に採苗した種苗を115万個供給するとともに、平成16年に供給する115万個の秋採苗を行い育成管理します。

エソバフンウニ付着期の幼生は300万個を供給します。

また、アワビモ波板6,200枚を供給します。

エソバフンウニ種苗本年度供給計画

(単位：千個)

殻径区分	5mm	10mm	計
14年秋産	3,215	300	3,515
15年春産	1,150		1,150
計	4,365	300	4,665



7 調査設計事業

調査設計事業の実施方針(基本的な考え方)

次の基本的な考え方を、公社の調査設計事業の実施方針とします。

- 1 公社は、全道の漁業協同組合と沿海市町村を会員としている公益法人団体であることから、その基本的なスタンスは、こうした視点に立って考えます。
- 2 受託事業については、精度の高い調査と公正な判断による高品質な報告書を作成するとともに、漁業環境の保全と漁業影響を防止するための考え方を提言します。
- 3 公社は、事業実施者と漁業者との間にあって、問題の解決に向けての調整と提言を行います。

平成15年度調査設計事業受託見込み

平成15年度の調査設計事業は、次の4点から積算した結果、事業規模見込みを受託件数71件、受託金額690,000千円とする。

- 1 平成10年度から14年度までにおける受託実績の推移と傾向。
- 2 継続事業の受託実績。
- 3 平成10年度から14年度までにおける新規受託事業実績の推移と傾向。
- 4 平成10年度から14年度までにおける設計変更に伴う受託事業費の増加実績。



8 クロソイ種苗生産事業

平成9年度から11年度までの3か年計画で行われた道の「クロソイ種苗生産委託事業」が終了しましたので、平成12年度から会員の要望により30mm種苗を生産し、要望先へ配布しています。本年度は、30mm種苗58万9千尾を生産し、供給します。

クロソイ種苗の要望先一覧表

要望先	尾数(尾)
増毛町	10,000
寿都町漁業協同組合	92,000
島牧漁業協同組合	20,000
ひやま漁業協同組合瀬棚支所	100,000
松前さくら漁業協同組合	6,000
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	70,000
噴火湾渡島海域漁業振興連絡協議会	100,000
三石町栽培漁業推進協議会	5,000
大津漁業協同組合	20,000
釧路市漁業協同組合	15,000
北海道立函館水産試験場	15,000
北海道立栽培漁業総合センター	5,000
北海道立漁業研修所	1,000
室蘭漁業協同組合	70,000
古平漁業協同組合	60,000
合 計	589,000